

令和6年度（令和6年4月～令和7年3月）

事業報告書



<https://livelaugh.jp/>

目次

1. 概要	3 ページ
2. 事業概略	4 ページ
3. 運営状況	5 ページ
4. 財務状況	6 ページ
5. 今後の展望と課題	7 ページ

1. 概要

一般社団法人りぶらふは、令和6年3月1日に大津市から指定を受け、児童福祉法に基づく障害児通所支援事業所「ふあぶらふあむ」（指定放課後等デイサービス）の運営を開始しました。

当初の計画では、令和5年3月から運営開始を予定していた為、法人自体は令和4年6月1日に設立していました。しかし外的な要因により令和5年3月に運営を開始できなくなり、1年遅れでの運営開始となりました。

船出は1年遅くなりましたが、ありがたいことに、たくさんの利用者様の支持と理解をいただき、さらに素晴らしい職員に恵まれ、大きな事故もなく1年間安定した運営をすることができました。

一般型放課後等デイサービスでありながら、看護師を配置し、日常的に医療的ケアを必要とする児童（医ケア児）が、安全安心に通所できる体制を整えた放課後等デイサービスのパイオニアとして湖西エリアにおいて認知をしていただいておりますが、医ケア児さんや重心児さん以外にも、様々なタイプの障害を持つ児童が、経験豊かな児童指導員や保育士、そして看護師と共に、成功や喜び、そしてちょっとした失敗や挫折も含めた様々な経験を、安全に積み重ねられる支援体制を継続していきたいと考えております。

そして、立ち上げ初年度にもかかわらず、ダイトロン福祉財団様から車いす搭載可能な送迎車の助成をしていただきました。本当にありがとうございました。

公益財団法人 ダイトロン福祉財団

2024年度（令和6年）第23回 障害者福祉助成金

一般社団法人 りぶらふ ふあぶらふあむ

【車】ホンダ フリード+車いす仕様車の新規購入



2. 事業概略

- ・障害児通所支援事業所（指定放課後等デイサービス）



滋賀県大津市衣川2丁目32-21

<https://fabfam.livelaugh.jp/>

「いっしょに笑う、いっしょに生きる」をスローガンに、様々なタイプの障害を持つ児童が、一緒に空間で一緒に時間を過ごすことで、集団の中で互いを認め合える関係性を獲得できることを目指しています。

- ・令和6年度の稼働実績

年	月	開所日数	定休日	延べ利用数	1日あたり	内医ケア児	内重心児
R7年	4月	22	8	226	10.27	54	22
	5月	21	10	214	10.19	54	22
	6月	20	10	210	10.50	52	20
	7月	23	8	228	9.91	51	23
	8月	20	11	195	9.75	46	20
	9月	21	9	210	10.00	49	23
	10月	23	8	226	9.83	54	24
	11月	21	9	195	9.29	45	15
	12月	21	10	203	9.67	53	24
R8年	1月	20	11	201	10.05	51	21
	2月	21	8	189	9.00	51	19
	3月	21	10	208	9.90	47	26
合計		254日	112日	2,505人	9.86人	607人	259人

延べ利用児童数を開所日数で除すると、年間平均で1日当たり約10人の児童が利用されていることがわかります。また、1日あたりの平均利用児童数は、11月と2月にキャンセル数の増加（流感等によるもの）により多月と比較して落ち込む月はあるものの、年間を通して10人前後で安定しています。

延べ利用児童数のうち、約35%が医ケア児と重症心身障害児が占めており、1日当たりにすると3人～4人の医ケア児さんと重心児さんに利用いただいております。

3. 運営状況

- ・スタッフの状況（令和7年3月現在）

職種	員数	常勤		非常勤		常勤 換算	備考
		専従	兼務	専従	兼務		
管理 者	1	0	1	0	0	0.5	
児童発達支援管理責任者	1	0	1	0	0	0.5	児童発達支援管理責任者は管理者を兼務する
児童指導員等	5	3	0	2	0	4.13	保育士を含み、普通自動車運転免許所持する者は運転手を兼務
看護職員	7	0	0	7	0	1.8	看護師、准看護師、保健師、助産師で、普通自動車運転免許所持する者は運転手を兼務
その他指導員	3	0	0	3	0	0.5	上記以外の指導員で普通自動車運転免許所持する者は運転手を兼務

人員数的には充足した状態ではあるが、子育て中のスタッフも多く、日によつては不足する日もしばしばみられるため、引き続きパートスタッフの強化を図ります。

また、核となる児童指導員や看護師の確保を図るため、常勤スタッフの募集も折を見て行う予定です。

- ・運営体制状況（令和7年3月現在）

強いコンプライアンス意識をもって運営しているため、義務化された項目には完全に準拠できています。しかしその内容に関しては、外的要因的要因を定期的に分析し、アップデートをしていく必要があるため、1年に1度見直しをかけ、必要であれば内容の見直しを図っています。

4. 財務状況

別紙「決算報告書」をご覧ください。

月々の収支に多少のばらつきはあるものの、1年目から黒字決算を達成しています。

売上高に対しての人事費率が高くなっていますが、これは支援の質と安全な支援体制を確保するため、1日あたりの勤務スタッフ数が他の放課後等デイサービスよりも多くなっているためです。当日の利用キャンセル等での利用児童数変化に応じ、人員のコントロールも適正に行っております。

5. 今後の課題と展望

・医ケア児と重心児のさらなる利用促進

看護師を配置していることもあり、新規の問い合わせを含め、医ケア児さんや重心児さんの保護者様からの利用希望が多い傾向があります。この要望に応えるには ①送迎力の強化 ②活動スペースの確保 が必須です。

①に関しては、助成金を活用した車いす搭載が可能な送迎車の導入によりハード面の強化は図れます、慢性的な人材不足も相まって、日によっては送迎車の運転ができる保育士や児童指導員が不足する日もあり、送迎の計画が現状でも立てづらい日があります（特に夏休み等の長期休暇と祝日の営業日）。

②に関しては、施設の物理的な拡張が必要であるため、当面の対応が厳しい状況です。ニーズの増加に合わせ、人員の確保ができれば、近隣での重心型施設の新設等で対応できればと考えていますが、近い将来での対応は難しく、運営事業者の体力面での強化を待っての（3年～5年）解決を考えています。

・動物介在活動（AAA: Animal Assisted Activities）の導入

3年から5年の間に、ふあぶふあむにおいて、ミニチュアホースや引退競走馬等が活躍できる、動物介在活動を取り入れたいと考えています。

動物介在活動とは、動物との触れ合いを通じて、人々の生活の質（QOL）の向上や情緒的な安定を図る活動のことを指します。日本ではアニマルセラピーとして一般的には認知されていますが、外国でのアニマルセラピーは「動物介在療法（AAT）」を指し、医療従事者が計画に基づき、動物と共に患者に治療を行います。例えば、乗馬を継続的に行うことにより、下肢不自由者でも歩行時のように感覚が体験できるので、姿勢保持力や平衡機能感覚の身体的機能の強化が図れ、馬に乗れたという成功体験を積み重ねることによる心理面の強化等が効果として認められています。

ゆくゆくはそういったことも安全に体験できるような体制を整えていく予定ですが、まずは動物介在活動の方を取り入れ、癒しによるストレスの緩和や感情の安定、幸福感の向上を図れる機会を、安全に提供できるような体制を、ハード面ソフト面の両方で整備していきたいと思っています。

そうなると、やはり現在の施設では実現することがかなり厳しいため、計画の遂行と施設の移転にかかっていると言っても過言ではないと思います。

- 卒業後に利用できる施設の新設

また、放課後等デイサービスに囚われず、現在ふあぶふあむを利用している児童が、高校を卒業した後でも引き続き安心して利用できる施設を求めておられるニーズもあり、それに応えるべく、生活介護等の通所施設を新設したいとも考えています。

前述のニーズと併せて考えると、現状の衣川では展開しづらい現実を認めざるを得ない状態を認識しているため、まずは現在の施設から半径 5km 圏内で、これらを実現できるような土地建物を調査しています。

- 人員の確保

ハード面の用意ができるても、働くスタッフの確保ができないと利用者の受け入れはできません。支援の質を確保するために、現在の施設でスタッフを増やし、現在のスタッフから支援のノウハウを吸収してもらい、ふあぶふあむと新しい施設の更なる成長のための準備をしたいところですが、そもそも増えたスタッフが働くためのスペースが現状無く、スタッフを増やすこともなかなか難しい状態です。鶏が先か卵が先かではありませんが、広さと現在のスタッフの居住地からスムーズに通勤が確保できる、バランスの取れた良い場所があれば、施設の新設か移転を検討したいです。